

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (特設分野研究)

研究期間：2016～2019

課題番号：16KT0087

研究課題名(和文) 大学教育のグローバル・スタディーズ 競争・連携・アイデンティティ

研究課題名(英文) Global Studies on University Education

研究代表者

米澤 彰純 (Yonezawa, Akiyoshi)

東北大学・国際戦略室・教授

研究者番号：70251428

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2010年代後半に起きていた世界の大学教育の質的転換を、特に学士課程改革に焦点を当て、変化を先取りしていると考えられる国際的な事例と日本の大学教育とのあり方を検討し、どのように一国の教育システムをグローバルな世界へと結びつけるのかを展望した。分析対象は、起点になる日本、主要な調査対象である韓国、マレーシア、オーストラリア、オランダの他、理念系として参照される米国、中国、英国、欧州大陸国家群という幅広いものとなった。オリジナルな枠組みのなかで、グローバル・スタディーズのアプローチが有効であること、日本の学士課程教育の方向性の喪失を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

過去30年間のグローバル化において、世界には複数の理念モデルが存在し、その方向性において互いに影響を受けながらも収斂しているとは言えない。日本で従来主流であった、先進事例や世界的な趨勢に対して借用を通じたキャッチアップをするという見方とは異なる、世界的な趨勢としての分岐と収斂、大学教育への内在的な価値付けと外在的な価値付けという相互に相対立する方向性のなかで、国として、大学として多様な選択肢が開かれている見方を提示した。従来の一元的な見方ではなく、むしろ多様な方向性を内包したダイナミックな相互作用として学生課程教育の国際動向を捉えることに成功した。

研究成果の概要(英文)：This research examined the qualitative transformation of global university education that was taking place in the late 2010s, particularly in the reform of undergraduate programs. Focusing on country cases that are considered to be ahead of the changes and how they relate to university education in Japan. The study examined how to link a country's education system to the global context. The analysis included Japan as a starting point, South Korea, Malaysia, Australia, the Netherlands, as well as the United States, China, the United Kingdom, and a wide range of continental European states that are referred to as ideological systems. With the original framework, the validity of global studies approach was demonstrated. However, we also found that Japan is losing the direction for undergraduate education in terms of international context.

研究分野：高等教育研究

キーワード：高等教育 グローバル化 学士課程教育 多様化

1. 研究開始当初の背景

(1) 教育学を越えた大学教育のグローバル・スタディーズへの要請

我々は、世界的な社会・経済の構造変動が進むなか、先進国・新興国・開発途上国を問わず、大学教育のあり方が大きく問われているとの認識から出発した。日本では、大学教育の国際化の必要性が30年以上提唱されてきた。「グローバル人材」の育成、留学生の受入・学生の派遣拡大等について、産学官のリーダーを巻き込んだ議論がなされ、政府の教育再生実行会議のみならず多様な場で様々な提案が行われている。「スーパーグローバル大学創成支援」(2014年度～)事業など国策としての取り組みも本格化し、学生に対して国際的な学習環境を提供するための研究や実践も進展している。しかしながら、世界の高等教育の大規模な量的拡大、学生・教員の国際移動の急増、トップ大学間のランキング競争が激化するなか、日本の大学教育の国際的存在感が喪われつつあった。

本研究では「グローバル・スタディーズ」を、世界が共通に抱えるグローバル・イシューに対しての、国際社会・経済、国際関係・協力・連携などに関わる社会科学による学際アプローチによる解明と定義した。その上で、本研究は、大学教育の国際動向を、従来の国や地方を主な対象としていた教育学の枠を越えたグローバル・スタディーズとして検討し、その将来展望を切り開くことを目指すことにした。たとえば、グローバル人材育成のためには、大学教育の多様な改革と実践の背景にある国家・産業間の競争・連携などのグローバルな構造とその変化を踏まえた明確なビジョンと行動計画の提示が求められる。ここでは、現代の国際経済・政治・社会の構造とダイナミズムの理解と、それに対する国家・大学の戦略や国際協力・連携の実効性の把握が必須条件となる。

(2) グローバル・スタディーズにおける大学教育への着目の重要性

現在日本の大学教育では、国際関係論や地域研究、グローバル・イシューなどを中心としたグローバル・スタディーズの教育課程が次々と設立され、その学術的検討が進んでいる。しかしながら、日本の中では、グローバル・スタディーズの研究対象として大学教育自体に着目し、その特性を明らかにしようという動きは、まだ本申請メンバーなど一部にとどまっていた。国連「持続可能な開発目標(SDGs)」においては、すべての男女への初等・中等教育の無償提供が目標として定められ、高等教育へのアクセスの平等にも言及がなされた。また、研究分担者北村らが関わり「持続可能な開発のための高等教育に関する名古屋宣言(2014年)」が採択され、国連による高等教育持続性イニシアティブなどの動きも出てきていた。

(3) 高等教育のグローバル・スタディーズの国際展開と日本からの貢献

大学教育は、グローバルに活躍するリーダーや知識労働者の育成、高技能移民、科学技術・イノベーション、知識外交、教育サービス貿易、国際技術協力、21世紀スキルや地球市民の形成など、多様な形でグローバル・イシューに深く関わっている。大学教育の理念と実践は、各国・大学固有の歴史・文化・社会的位置づけのなかで培われてきたが、ヒト・資本・情報の移動における国境が消滅するという意味での「グローバル時代」においては、これら各国・大学の固有の背景を超えて、共通の外的要因が世界中の大学教育のあり方を普遍的に変化させることが多くなると考えられる。UNESCOは、高等教育をグローバル・イシューとして協議する世界会議を1998年、2009年にそれぞれ開催している。また、世界システムの構造変化として高等教育問題をとらえるAltbach、世界大学ランキングなどによる大学・国家間競争や、東アジアなどの新興諸国の高等教育システムの台頭、世界中で進む高等教育への参加率の拡大のもたらす帰結などについて国際共同研究を進めるMarginsonや、高等教育の国際化・連携、高等教育による知識外交などの概念化を進めるKnightなど、グローバル・イシューとしての高等教育研究が大きく前進した。この中で、申請者たちは、特に日本やアジアの高等教育のアイデンティティの形成と発展に着目しながら、彼らとともに国際的議論・研究に参加・貢献してきた。

2. 研究の目的

本研究は、グローバル化により大きく変化する世界の大学教育の特質とその中での日本の位置づけを、大学・国家・産業間の競争・連携・アイデンティティ形成のあり方に着目して明らかにすることを目的とする。大学教育の世界的変化を理解し、日本の大学教育の展望を切り開くには、国や地方を主な対象としてきた従来の教育学を越え、国際社会・経済やその中での連携・協力のダイナミズムを踏まえたグローバル・スタディーズとしての多面的・包括的なアプローチが不可欠である。本研究では、グローバル・スタディーズを、世界が共通に抱えるグローバル・イシューに対しての、国際経済・社会、国際関係・協力・連携などに関わる社会科学による学際アプローチによる解明と定義する。本研究では、グローバル化の影響を受けやすい大学院課程と多様で幅広い層に関わる学士課程を対比しながら、世界各国と日本の大学がグローバル・リージョナル・ナショナル・ローカルな文脈をどう意識して大学教育の理念を定義し実践しているかを、共通の枠組みの下で国家・産業との相互関連に注目して分析し、展望を示す。

本研究では、グローバル化の下で、ヒト・資本・情報の国際移動の増大が世界共通の枠組みの重要性を高めつつ、各国・大学の多様なアプローチは維持されると想定し、その上で、大学教育の理念と実践の趨勢変化に関わるメカニズムの特定、大学教育の理念と実践についての国

内外の先進事例への訪問調査を行い、日本との比較を念頭に分析を行う。さらに、これらを通じて、グローバル化が大学教育の理念と実践に与える影響を特定する。以上を通じ、日本とアジアの大学教育のアイデンティティ形成・発展の可能性について検討し、日本の大学教育への示唆を提示すると同時に、大学教育のグローバル・スタディーズへの日本からの学術的貢献へのビジョンを示す。

本研究の学術的特色と独創性は、重要なグローバル・イシューである大学教育に対するグローバル・スタディーズとしてのアプローチを発展・確立させること、日本の研究者の視点に立った大学教育の国際動向に関する検証と国際発信にある。また、本研究の意義は、大学教育の国際化研究に対するグローバル・スタディーズとしての問い直し、日本の視点に立ったグローバル時代の大学教育ビジョンの国内外への提示にある。

3. 研究の方法

本研究では、世界の学士課程教育改革を見直すアプローチとして、「グローバル・スタディーズ」というアプローチをとった。日本から世界の学士課程教育を考える上では、やはり日本の教育や社会の現実に立脚した議論が必要である。すなわち、グローバルな俯瞰的視点に立つのではなく、世界には多様な価値観をもつ多様な教育システム及び社会が存在しており、その多様な価値観の上に研究コミュニティを形成し、参加していくというアプローチをとることができる、つまり、「世界の見方は一つではない」との考え方である。

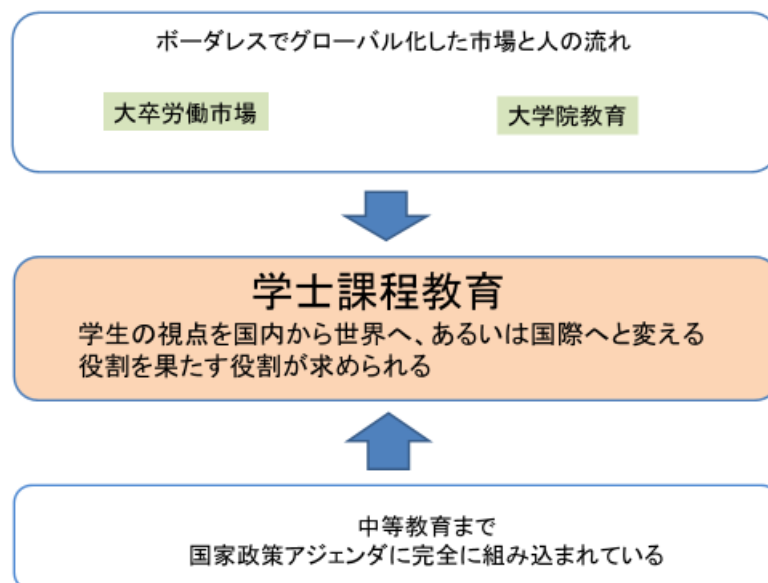


図1 学士課程に求められる国内から国際への転換という役割

世界には複数の世界観や価値があり、これが究極的にはよって立つ文明の違いに帰着する深い違いを持ち、そのうえでグローバルな人や知識の流れのなかでこれらが交錯するようなダイナミズムがあるという多元的世界観に立脚する。高等教育研究の世界においても、この立場は特に東アジアにおいて顕著に表れている。世界の分裂と文化間の衝突という「バルカン化」という世界観を、国境を越えて日常的に人や物や情報が行き来する現代の東アジアに当てはめることには無理があるとは言え、東アジア、東南アジアにはそれぞれの言語や文化の違いが厳然と存在し、「一つの世界」への方向付けからはかなり距離があり、日本はそのなかでも、特に高等教育の国内的な文脈が強く存在し、国を超えた人や物や情報の流れによってその国内的な文脈が受ける影響が比較的少ない。

具体的には、海外研究協力者を招いて3回の国際ワークショップを行い、同時にオーストラリア、オランダ、マレーシア、韓国について、海外研究協力者と共同研究として現地調査・分析を行った。このほか、日本教育学会、教育社会学会、比較教育学会、高等教育学会などの国内学会や、中国、東南アジア、欧州、北米での国際学会・学術会議での発表や対話を通じて、研究枠組みや分析について、グローバル・スタディーズとしてのアプローチの開拓に努めた。

4. 研究成果

研究成果は、具体的には下記のようなものとなった。世界の見方が一つには定まらないことを前提とした場合、世界に「グローバルな趨勢」や「標準化された将来像」を想定してそれに向かってキャッチアップを行うという見方から離脱することになる。すなわち、ある程度考え方に幅がありつつも、大まかには方向性の違いとして、「収斂(convergent) - 分岐(divergent)」という軸を設定することができる。すなわち、「収斂」は、世界の大学教育がいずれ一つのモデルに収斂する、という考え方で、この方向性として示されがちなのが、米国や英国などの英語圏を代表する理念型としてのモデルである。それに対して、「分岐」は、世界の大学教育は複数のモデルへと分岐していくという考え方であり、たとえば、中国や欧州大陸などでは、英国や米国とは異なる独自の学士課程教育のモデルが理念系として提示され続けている。各国の見方は、それぞれこの2つの対立する理念の間のバランスの中に位置付く。他方、大学教育に対しては、大学(university)やこれにかかわる教員(academics)が、自分たちの内在的な価値観や論理に忠実に大学教育のあり方を定めるべきであるという考え方(内在的)と、学外、すなわち、政府や市場(学生や産業)の意向に沿うべきであるという考え方(外在的)とがありえることから、「内在的(intrinsic) - 外在的(extrinsic)」という軸を設定することができ、各国の見方はこの2つの対立する理念の間のバランスの中に位置付く。

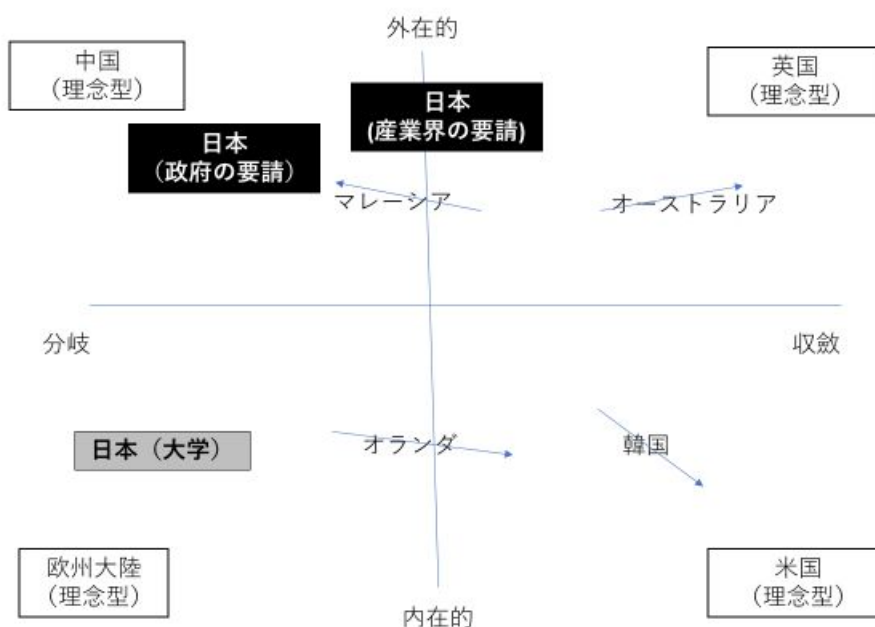


図2 学士課程改革の方向性

このように考えると、図2のような枠組みを示すことができる。まず、世界の各国が、大学教育、特に学士課程教育の方向性のモデルとするような国々について、実態の複雑さは捨象した上でその理念型としてのイメージを当てはめると、「外在的 収斂」の象限がめざす方向性としては「理念型としての英国」を位置づけることができる。これは、同国が政府およびそれが駆り立てる疑似市場的なメカニズムのもとで、どちらかと言えば外在的なロジックが優先される形で、かつ、どちらかと言えば一元的な「グローバルな競争」へのコミットメントが強い改革が進んでいるとのイメージがあり、各国の大学がこのような理念的なイメージを参照しながら自国の位置づけを決めているという理解である。したがって、ここでは、英国は、あくまで理念型としての「参照モデル」であり、これは、必ずしも英国の大学教育の多様で複雑な実態を意味するわけではない。

同様に、「内在的 収斂」の象限が目指す方向性としては、特に冷戦終結当初におけるパックスアメリカナ的な理解をされていた「グローバル化時代の中で多くの国々の大学が、自律的な大学教育像の理想的姿としてめざす「理念型としての米国」がある。繰り返しとなるが、これは、あくまで「参照モデル」としての理念型であり、アメリカの大学教育の多様で複雑な実態を意味するわけではない。

同じロジックは、「内在的 分岐」の象限に於いては「理念系としての欧州大陸」、「外在的分岐」の象限においては「理念系としての中国」がある。これは、前者の大学が中世大学以来の伝統の中で大学の自治を大学理念の強い基盤として持つのに対し、後者が社会主義革命により建国された近代国家のもとにおかれた大学であること、そして、両者がともに理念としてそれぞれの固有の伝統や価値観を重視していることである。これらもあくまで理念型としての他の国から見たときの「参照モデル」となる。

各国の大学教育は、それぞれ、このような理念枠組みの中に位置付くことになる。図に示しているのは、基本的には、主に大学あるいは大学教員の視点に立った見方となる。そこには、現在

の位置と、その変化の方向性を矢印で示している。

このようにみたとき、日本については、後述するが、大学・教員の立場から見たときには、現状としては、「内在的 分岐」の象限にあり、これ自体「国際化の遅れ」と捉えることもできるが、同時に、この「遅れ」と捉えられる背景には、「外在的」であり、大学と同様ナショナルな性格を強く持ちながらも大学に対しては「収斂」の方向へと働きかける「政府の要請」「産業界の要請」との間に距離の開きが見受けられ、また、その変化の方向性が定まっていないというのが本研究の見解となる。

研究成果については、関連出版と合わせ Consortium for Higher Education Researchers 年次大会など国内外で発表してフィードバックを得た。書籍としての出版に向けて最終準備を進め、2020年の日本教育学会の課題研究で報告する。

最終的な分析対象は、起点になる日本、主要な調査対象である韓国、マレーシア、オーストラリア、オランダの他、理念系として参照される米国、中国、英国、欧州大陸国家群という幅広いものとなった。国ごとの文脈の強い中等教育までとグローバルな文脈が強い大卒労働市場や大学院とを結びつけて視点の転換を図る役割を担う学士課程の研究において、グローバル・スタディーズのアプローチが有効であることを示した。得られた知見として、過去30年間のグローバル化が世界的な課題と考えられた時代においても、世界には複数の理念モデルが存在し、その方向性において互いに影響を受けながらも収斂しているとは言えないことを明らかにした。日本で従来主流であった、先進事例や世界的な趨勢に対して借用を通じたキャッチアップをするという見方とは異なる、世界的な趨勢としての分岐と収斂、大学教育への内在的な価値付けと外在的な価値付けという相互に相対立する方向性のなかで、国として、大学として多様な選択肢が開かれている見方を提示するに至った。本研究は、世界鳥瞰図としての要素を持ちながら、従来のシステム比較や教育借用、さらにはキャッチアップがもっていた一元的な見方ではなく、むしろ多様な方向性を内包したダイナミックな相互作用として学生課程教育の国際動向を捉えることに成功した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 米澤彰純	4. 巻 56
2. 論文標題 脱群盲評象とグローバル・スタディーズ：比較高等教育研究の現代的挑戦	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 160-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Akiyoshi Yonezawa	4. 巻 96
2. 論文標題 Japan: World-Class Universities for Social Innovation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Higher Education	6. 最初と最後の頁 21-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6017/ihe.2019.96.10779	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 塚田亜弥子, 太田浩	4. 巻 212
2. 論文標題 韓国的高等教育改革と留学生政策	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 カレッジマネジメント	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 塚田亜弥子, 太田浩	4. 巻 57
2. 論文標題 日韓における留学生10万人達成と留学生政策 - 留学生受入れにおける量と質の両立を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 89-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田浩	4. 巻 48
2. 論文標題 政府主導による外国留学支援政策に関する比較分析 - 米国と豪州の事例から -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 異文化間研究	6. 最初と最後の頁 18-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊多波良雄, 太田浩, 山崎その, 宮嶋恒二	4. 巻 70
2. 論文標題 階層分析法を用いた大学改革の現状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済学論叢	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimmi Yukiko, Ota Hiroshi	4. 巻 94
2. 論文標題 Super-Short-Term Study Abroad in Japan: A Dramatic Increase	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Higher Education	6. 最初と最後の頁 13-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.6017/ihe.2018.0.10559	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 OTA Hiroshi	4. 巻 12
2. 論文標題 Internationalization of Higher Education: Global Trends and Japan's Challenges	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Educational Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 91-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.7571/esjkyoiku.12.91	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Futao Huang	4. 巻 66
2. 論文標題 Transfers of General Education from the United States to East Asia: Case Studies of Japan, China and Hong Kong	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of General Education	6. 最初と最後の頁 77-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黄福涛	4. 巻 39
2. 論文標題 美国大学的自由教育与通識教育是如何形成的? (アメリカのリベラル教育と一般教育の形成と変遷について)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 清華大学教育研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yonezawa, A., Hoshino, A., & Shimauchi, S.	4. 巻 42(10)
2. 論文標題 Inter-and intra-regional dynamics on the idea of universities in East Asia: perspectives from Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Studies in Higher Education	6. 最初と最後の頁 1839-1852
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03075079.2017.1376875	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米澤彰純	4. 巻 56
2. 論文標題 グローバル化時代における大学の国際比較 脱群盲評象とグローバル・スタディーズ—比較高等教育研究の現代的挑戦—	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 160-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ota, Hiroshi & Watabe Yuki	4. 巻 7
2. 論文標題 Mapping Internationalization of Japanese Universities: Goals, Strategies, and Indicators	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Briefs for Higher Education Leaders	6. 最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新見有紀子, 秋庭裕子, 太田浩, 横田雅弘	4. 巻 74
2. 論文標題 学部レベルの海外留学経験がキャリアにもたらすインパクト	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 留学交流	6. 最初と最後の頁 14-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 太田浩	4. 巻 596
2. 論文標題 一橋大学の海外留学・研修制度	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDE現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 38-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huang, F.	4. 巻 in print
2. 論文標題 Transfers of Liberal and General Education from the USA to East Asia: Case Studies of Japan, China and Hong Kong	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of General Education	6. 最初と最後の頁 in print
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Edwards,D.B Jr., Okitsu, T., Dacosta,T. and Kitamura, Y.	4. 巻 61(2)
2. 論文標題 Organizational Legitimacy in the Global Education Policy Field: Learning from UNESCO and the Global Monitoring Report	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Comparative Education Review	6. 最初と最後の頁 31-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kitamura, Y.	4. 巻 online
2. 論文標題 Education for Sustainable Development in Asia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of Education	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/acrefore/9780190264093.013.12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田文	4. 巻 21
2. 論文標題 高等教育の拡大と学生の多様化 日本における問題の論じられ方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 高等教育研究	6. 最初と最後の頁 近刊
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aya Yoshida	4. 巻 15
2. 論文標題 From Education to learning Outcomes: How can Academia show?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Higher Education Forum	6. 最初と最後の頁 近刊
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 米澤彰純, 梅宮直樹	4. 巻 25(1,2)
2. 論文標題 グローバル・ガバナンスと高等教育開発	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 81-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aya Yoshida	4. 巻 11
2. 論文標題 'Global Human Resource Development' and Japanese University Education	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Educational Studies in Japan: International Yearbook	6. 最初と最後の頁 83-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yukako Yonezawa	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Internationalization Management in Japanese Universities: The Effects of Institutional Structures and Cultures	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Studies in International Education	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1028315317706412	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Futao Huang	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 The impact of mass and universal higher education on curriculum and instruction: case studies of China and Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Higher Education	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10734-016-0061-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 サヌシ ザイナル・アピディン (米澤彰純訳)	4. 巻 12(8)
2. 論文標題 マレーシアHigher Education Leadership Academyによるリーダー養成	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 大学マネジメント	6. 最初と最後の頁 8-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Akiyoshi Yonezawa	4. 巻 88
2. 論文標題 The Humanities and Social Sciences in the Age of STEM: The Struggle of Japanese as a Linguistic Minority	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Higher Education	6. 最初と最後の頁 31-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計50件 (うち招待講演 24件 / うち国際学会 28件)

1. 発表者名 Akiyoshi Yonezawa
2. 発表標題 Inter- and intra-regional dynamics on the idea of universities in East Asia perspectives from Japan
3. 学会等名 Japan Center for Michigan Universities (JCMU) Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米澤彰純
2. 発表標題 アジアにおける大学の理念再考と日本の位置づけ
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米澤彰純, 高橋宏, 山崎慎一, 嶋内佐絵, 坂下景子, 濱名篤
2. 発表標題 私立大学教育国際化の新展開
3. 学会等名 大学教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiyoshi Yonezawa
2. 発表標題 Higher Education Research in Asia
3. 学会等名 日本比較教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiyoshi Yonezawa, Tian-li YANG
2. 発表標題 Institutional Research at universities as ecosystems: perspectives from Japan
3. 学会等名 中国教育学会院校研究分会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiyoshi Yonezawa
2. 発表標題 National university reforms introduced by the Japanese government
3. 学会等名 European Higher Education Society(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hugo Horta, Akiyoshi Yonezawa, Shengju Chan, Simon Marginson
2. 発表標題 Higher Education Research in Asia
3. 学会等名 Consortium for Higher Education Researchers (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi & Watabe, Yuki
2. 発表標題 Examining Indicators for Evaluation of University Internationalization in Asia-Pacific
3. 学会等名 APAIE 2019 Conference & Exhibition (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 どうする日本の留学生受入れ：ポスト30万人計画に向けた留学生政策
3. 学会等名 異文化間教育学会特定課題研究・公開研究会：異文化間教育における政策と研究者の役割
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 どうする日本の留学生受入れ：ポスト30万人計画を見据えた留学生政策
3. 学会等名 異文化間教育学会特定課題研究・公開研究会：異文化間教育における政策と研究者の役割
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田浩, 山崎その, 伊多波良雄
2. 発表標題 大学経営における生産性・効率性変化の状況及びその要因について
3. 学会等名 大学行政管理学会第22回研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田浩, 新見有紀子, 秋庭裕子
2. 発表標題 長期留学(学位取得目的)と短期留学(単位取得目的等)の効果・学習成果の比較分析
3. 学会等名 異文化間教育学会第39回大会(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 Recruiting Students from Japan: Recent Trends of and Government Initiatives for Study Abroad
3. 学会等名 NAFSA 2018 Annual Conference & Expo(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 International Education and University (Undergraduate) Education in Japan
3. 学会等名 Transformation of Undergraduate Education under Globalization: A Trial for the Global Studies of Higher Education(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 IPPM (International Program and Provider Mobility) and Japan
3. 学会等名 Higher Education in Asia and IPPM (International Program and Provider Mobility) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 米国と豪州の外国留学支援政策および留学の学習成果分析に関する動向
3. 学会等名 河合塾シンポジウム：カリキュラムデザインと事前・事後学習から見た学生を伸ばす留学・海外留学プログラム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 外国学修歴・資格評価 (FCE) システム：留学生の入学選考を中心に
3. 学会等名 第4回スーパーグローバル大学創成支援事業勉強会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 世界の留学生事情と日本の課題
3. 学会等名 第18回日本語教育機関トップセミナー (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 Re-inventing Japan ' s Internationalization of Higher Education via the Top Global University Project
3. 学会等名 Internationalization of Higher Education Platform: Internationalization Policies and Practices for Future Development (Symposium 2018) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 外国人留学生リクルーティングとアドミッションを考える
3. 学会等名 J-Conference (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 Recent Policies and Changes in Internationalization of Japanese Higher Education: Unintended Consequences
3. 学会等名 JAISE-KAIE Joint Seminar 2018: Developing Future International Student Exchange (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 Recent Trends of and Government Initiatives for Japanese Study Abroad
3. 学会等名 Study UK Exhibition 2018: Japan Market Briefing, October 19, 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 大学における国際教育のあり方と方策を考える
3. 学会等名 女子栄養大学講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 Recent Trends of and Government Initiatives for Study Abroad
3. 学会等名 Round Table Discussion/Open Dialogue on “ Issues and Perspectives - on U.S.-Japan Educational Exchanges（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 Japanese Higher Education and Internationalization: Behind the Scenes
3. 学会等名 Northeastern University - Meiji University Dialogue 2018（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuo KURODA
2. 発表標題 Global and Regional Governance of Education: A Case of International Diffusion of “ Inclusion ” Concept
3. 学会等名 EU Japan Forum 2019 organized by Institut d'etudes Europeennes（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo KURODA
2. 発表標題 Regional Governance and Cooperation of Higher Education in Asia
3. 学会等名 Inauguration Ceremony of the University Consortium of 21st Century Maritime Silk Road and University President's Forum (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yonezawa, A., .
2. 発表標題 The Promotion of the International Mobility of the Students
3. 学会等名 Higher Education Research Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米澤彰純、梅宮直樹
2. 発表標題 グローバル・ガバナンスと高等教育開発
3. 学会等名 国際開発学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米澤彰純
2. 発表標題 東アジアのリベラルアーツ教育：価値・役割・挑戦
3. 学会等名 大学教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米澤彰純
2. 発表標題 脱群盲評象とグローバル・スタディーズ：比較高等教育研究の現代的挑戦
3. 学会等名 日本比較教育学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoonezawa, A., Horta, H., & Osawa, A.
2. 発表標題 Mobility, formation and development of the academic profession in science, technology, engineering and mathematics in East and South East Asia
3. 学会等名 Consortium for Higher Education Researchers（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yonezawa, A., .
2. 発表標題 Ask Not What Your Country Can Do for You; Ask What You Can Do for Your Country: Japan ' s New World Class University Policy
3. 学会等名 European Higher Education Society
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米澤彰純
2. 発表標題 "女性にとっての大学進学 - 男女雇用均等法は何をもたらしたか? - "
3. 学会等名 日本教育社会学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yonezawa, A.,
2. 発表標題 Inter- and intra-regional dynamics on the idea of universities in East Asia perspectives from Japan
3. 学会等名 "International Symposium on Theory and Practice of Higher Education Development for 2030" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yonezawa, A.,
2. 発表標題 Mobility, formation, and development of the academic profession in science, technology, engineering, and mathematics in East and South East Asia
3. 学会等名 日本高等教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yonezawa, A., Jung, J., Horta, H. & Chao, Roger
2. 発表標題 Researching Higher Education in Asia
3. 学会等名 World Education Research Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Matsuzaka, Y., Yonezawa, A., Sato, Y., Mizuta, K. Yuan, F.& Adelman, C.,
2. 発表標題 East & West Dialogue for Higher Education Mobility: Reasons for and Impact of Asian and Pacific Student Flow
3. 学会等名 Comparative and International Education Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chan, S., Lo, W., Yonezawa, A., Liu, Y.
2. 発表標題 Hybrid University in East Asia
3. 学会等名 Comparative and International Education Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Huang, F.
2. 発表標題 Changes to Internationalization of Higher Education in Japan? An analysis of major findings from two national surveys in 2008-2017
3. 学会等名 International Symposium cum Senior Seminar on Contesting Globalization and Implications for Asian Pacific Higher Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Huang, F.
2. 発表標題 Designing University Curriculum for 2030: Historical and Comparative Perspectives
3. 学会等名 International Symposium on Theory and Practice of Higher Education Development for 2030 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kuroda, K.
2. 発表標題 Global Education Governance for the SDG 4- Prospecting EU-Japan Partnership
3. 学会等名 EU Japan Forum 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kitamura, Y., Williams, J.H. and Brehm, W.
2. 発表標題 Internationalization of Higher Education in Asia-Pacific: Toward a Mapping of Indicators and Their Utilization
3. 学会等名 takeholders Meeting on Indicators for Internationalization of Higher Education in Asia and the Pacific (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Inenaga, Y. & Yoshimoto, K.
2. 発表標題 Competencies and Career of Teaching Staff in Non-University Higher Education in Japan
3. 学会等名 Consortium for Higher Education Researchers
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akiyoshi Yonezawa
2. 発表標題 Revisiting Key Values, Roles and Challenges of Liberal Arts Education Perspectives from East Asia and Australia
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Akiyoshi Yonezawa
2. 発表標題 Study Abroad Experiences toward Careers in Japan
3. 学会等名 日本教育社会学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Akiyoshi Yonezawa, Shuai Wang
2. 発表標題 Developing Management Capacity of Senior Mangers: Japan 's challenge
3. 学会等名 International Conference on Educational Research (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hugo Horta, Akiyoshi Yonezawa, Aki Osawa
2. 発表標題 Mobility, training and collaborations of academics in STEM fields in East and South East Asia
3. 学会等名 Comparative and International Education Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akiyoshi Yonezawa
2. 発表標題 IR and Universities in East Asia: possible regional collaboration?
3. 学会等名 Taiwan Association of Institutional Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Akiyoshi Yonezawa
2. 発表標題 International/Regionalization: Academic Mobility, Brain Drain/Circulation
3. 学会等名 Higher Education Forum for Africa, Asia and Latin America (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 Yonezawa, A., Kitamura, Y., Yamamoto, B., Tokunaga, T. (Eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 306
3. 書名 Japanese Education in a Global Age	

1. 著者名 Jung, Jisun, Horta, Hugo, Yonezawa, Akiyoshi (Eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 366
3. 書名 Researching Higher Education in Asia	

1. 著者名 Ota, Hiroshi & Horiuchi, Kiyomi, Oxon	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 266
3. 書名 Internationalization through English-medium Instruction in Japan: Challenging a Contemporary Dejima	

1. 著者名 Yuto Kitamura, Toshiyuki Omomo and Masaaki Katsuno (eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 241
3. 書名 Education in Japan: A Comprehensive Analysis of Education Reforms and Practices	

1. 著者名 Jung, J., Horta, H., Yonezawa, A. (Eds.)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 366
3. 書名 Researching Higher Education in Asia	

1. 著者名 Tsuneyoshi, R (ed.), Yonezawa, A., Kitamura, Y.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 227
3. 書名 Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education	

1. 著者名 横田雅弘、太田浩、新見有紀子編、米澤彰純、黒田一雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 306
3. 書名 海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト	

1. 著者名 Altbach, P. G., Reisberg, L. and de Wit, H. (Eds.), Yonezawa, A., Inenaga, Y.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Sense Publishers	5. 総ページ数 230
3. 書名 Responding to Massification: Differentiation in Postsecondary Education Worldwide	

1. 著者名 稲永由紀・吉本圭一（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 広島大学高等教育研究開発センター	5. 総ページ数 120
3. 書名 非大学型高等教育を担う教員と教育組織（	

1. 著者名 北村友人	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 276
3. 書名 グローバル時代の市民形成	

1. 著者名 Akiyoshi Yonezawa, Shuangye Chen, Jisun Jung, William Yat Wai Lo	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 12
3. 書名 Global Rankings and the Geopolitics of Higher Education	

1. 著者名 Akiyoshi Yonezawa, Yuki Inenaga	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Boston College	5. 総ページ数 9
3. 書名 Responding to Massification: Differentiation in Postsecondary Education Worldwide	

1. 著者名 Akiyoshi Yonezawa, Yukiko Shimmi	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Sense Publishers	5. 総ページ数 12
3. 書名 Matching Visibility and Performance -A Standing Challenge for World-Class Universities	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉田 文 (Yoshida Aya) (10221475)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	北村 友人 (Kitamura Yuto) (30362221)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	黄 福涛 (Huang Futao) (60335693)	広島大学・高等教育研究開発センター・教授 (15401)	
研究分担者	黒田 一雄 (Kuroda Kazuo) (70294600)	早稲田大学・国際学術院(アジア太平洋研究科)・教授 (32689)	
研究分担者	太田 浩 (Ota Hiroshi) (70345461)	一橋大学・森有礼高等教育国際流動化機構・教授 (12613)	

